

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 40

2021年12月14日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

「子コミュニティ」づくりと白梅発「保育カフェ」

村上博文(子ども学科)

はじめまして。2021年4月に白梅学園大学に着任しました村上博文と申します。3月までは、静岡の地にて、子どもを中心に保育について語り合う「子コミュニティ」づくりを、学生とともに10年近く行ってきました。その目的は、子どもや保育について関心のある人々が、学生、保育者、保護者という立場を超えて自由に学び、そして語り合う場をつくることでした。また学生が大学における学びだけでなく、大学という場を超えて地域で活躍する保育者とつながる機会をつくり、より保育について実践的に、そして主体的に学ぶ機会をつくることも目的でした。

現在では、「子どもと保育の未来空間」というプロジェクト名で、保育広場、保育カフェ、保育探検、そしてあそび広場の4つの活動を行っています。保育広場は、1年間に5回ほど外部から講師を招き、お話を聞き、参加者でディスカッションする活動です。主に、保育に対する自分の考え方をより広げる機会になることを願っています。また保育カフェは、1月に2回行われる学生による保育についての学習会です。さらに保育体験は、国内外の保育施設を見学するだけでなく、そこで働く園長先

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

生の保育にかける熱い思いを聞く機会になっています。そして遊び広場は、地元の商店街の活性化に少しでも貢献できたらという思いで、空き店舗を借りて光遊び等のコーナーをつくり、子どもと保護者、そして地域の人々が楽しむ場になっています。

これからの活動は、保育という視点から地域づくり、そして人と人をつないでいくことに微力ではありますが、貢献しつつあるようです。コロナ禍において活動は制約されていますが、現在も学生は活動を続け、頼もしく思うこの頃です。

次なる活動として、ゼミ生と一緒に構想しているのは白梅発の「保育カフェ」です。具体的には、オンラインで、保育者を目指す学生における学びのネットワークをつくることです。まずは静岡、それから日本全国へとつなげていきたいと考えています。オンラインでの出会いをきっかけに、実際に会って保育や自分の夢について語り合う、そんなつながりができることを楽しみにしています。



楽しかった 11 月あそぼうかい

荒井環希（子ども学科 1 年）



11 月あそぼうかいも無事、終了しました。来てくださった参加者の皆様ありがとうございます。今回のあそぼうかいのテーマは「さあみんなで行こう！～日本一周白梅の旅～」でした。コーナー事にテーマとなる都道府県を決め、それにあった遊びや装飾を作りました。

リハーサルでは各コーナーをまわり、改善点やよかった点を出し合いより安全で楽しめる場所を目指しました。また、車椅子で参加して下さる方のことも考え、車椅子で実際に各コーナーを回り、楽しんで頂けるように工夫しました。5月あそぼうかい、7月あそぼうかいよりも学生たちがアイデアを出し合って、より良いものを作ることができたと思います。



本番では寒いなかでしたが、参加者さんはそれぞれのコーナーを回り、楽しんでいる表情を見ることができました。



東京駅をモチーフにした受付コーナーでチケットをもらおうと、白梅の旅がスタートです。制作コーナーは京都がモチーフとなっていました。子どもと一緒にお守りを作るコーナーや、モミジの形をしたおみくじを引き、それを壁に貼ってある木の幹に貼りモミジの木を作っていました。ホッとコーナーは神奈川県をモチーフにしていました。中華街をイメージしたチャイナ服やパンダ、温泉をイメージしたカピバラやお猿さんの装飾で飾られていました。また、果物狩りができるスペースも作っており、折り紙でできた柿やブドウやイチゴを制限時間内に何個とれるかチャレンジを楽しんでいる様子が見られました。

大阪をモチーフにしたあそびコーナーではタコ釣り、タコ焼き投げ、タコ焼きボーリングなどで遊びました。景品として大阪のおばちゃんの恰好をした学生から折り紙で作った飴をもらったり、グリコの前で記念写真を撮ったりしていました。おわりのつどいは色々な都道府県を回ってクイズをしたり、歌に合わせて「ゴーゴー」と一緒に言ったりしました。遊び終えた子どもたちから「楽しかった！」、「また来るねー！！」と言って笑顔で帰っていく姿が見られました。

子ども食堂に参加して

吉村葵里

(家族・地域支援学科)



7月ゼミの一環で子ども食堂カモミールさんの活動に参加しました。小川西町公民館でボランティアの皆さんとお弁当を作るお手伝いをしました。野菜だけではなくお肉や副菜にこだわって彩り豊かなお弁当を作ることができました。偏りがちな栄養をしっかり補給できる生姜焼き弁当を配布しました。

実際に小川ホームでお弁当を配布し、地域の方と交流することができました。小平市在住の小さなお子さんからお母さんまでお話することができ、楽しかったです。コロナ禍で人と関わる機会が少なくなり、家でご飯を食べる機会も増えてきました。家族以外との交流が減ってきているこの世の中でお弁当を通して地域の方とお話することが出来、とても良い活動に参加できたこと嬉しく思います。



「武蔵美」通いにロックバー

—AORのご紹介—

音楽、特にロックの好きな方おこしください。むかしは、街のあちこちにロックバーがありました。今はすっかり様変わり、がっかりしていても出てきません。それなら自らやってみようと、64歳を境にこれまでの暮らしと仕事を

切り替えて ロックバーAORを、美大通りに建てました。

2019年の10月から準備をし、2020年1月に開業しました。やっと軌道に乗ろうという時に、コロナ禍に会い営

業を自粛したり、中止したり、それでも、「人生ゆっくり、自分らしく」をモットーに、前を向いて歩いています。「以前はどんなお仕事?」とお尋ねすると、何と美術系のお仕事、はじめは鍔金それからイラストレーターやアートモデレーター、…そして今、変革!

この厳しい世の中で好きなことをして生計を立て、好きに音楽のある生活を楽しむそんな不思議な魅力の主、山口朗さんが迎えてくれます。(隣の隣の住人金田利子 記)

- ・月明けとともに生みだし新政権 在日差別許さぬ道を
- ・夏服を片付けぬうち真冬来て これも証拠か地球異変の
- ・車中にてバギーの吾子に文字読ます 「母」に驚く我は「昭和」か
- ・取るべきはフィジカルな距離ソーシャルは あらゆる手段で密にするべし (金田利子)

西ネット 9 月懇談会

「豊島区の空き家に関するお話しのご感想」

9月の第41回懇談会では豊島区の「空き家利活用事業」にかんする取り組みの報告をしていただきましたが、積極的にこの問題に取り組んでいる豊島区の様子がよく分かりました。やはり行政の姿勢が重要であることを参加者一同実感したところです。

一方では行政任せにするのではなく、住民のつながりの中から広がっていくことも大切であるという感想もあり、今後とも継続してこの門域に取り組んでいく必要があると思われま

す。今回の懇談会のご感想が届きましたので紹介させていただきます。オンラインでの懇談会でしたので写真などはありません。

□市議会議員 安竹洋平 (一人会派の会)

今回はお忙しい中ご講演いただきありがとうございます。また会を主催してくださりありがとうございます。大変勉強になりました。

小平市も空き家対策において同様な対応方針はあるものの、豊島区は活用方針が明確化されており、また、社会的活用の際は改修費用に区の補助金が充てられる仕組みを設けていることが大きな特徴でした。空き家総数と比べてまだ社会的活用の件数は少ないものの、こうした新しい取り組みを行うこと自体が重要と思います。また、社会的活用を進めるためには、空き家所有者と行政とで普段からの信頼関係づくりが重要と考えます。例えば空き家になる前の段階の「空き室」の活用から関係づくりができると思いました。当一人会派の会で視察した空き家活用事例については「京都ソリデール 小平」で検索すると出てきますので、よろしければご覧ください

い。

□市議会議員 橋本久雄 (一人会派)

社協発行の小平居場所ガイドブック(第3版)には多くの居場所が掲載されている。市の条例には空き家の利活用がないので、市が空き家を活用する事例はない。個人宅の居場所は50ヶ所を越えたが持ち出しになるのでなかなか増えない。武蔵野市のテンミリオンハウスや世田谷区の一財)世田谷トラストまちづくりと連携し、地域交流の活性化、地域コミュニティの再生等「世田谷区空き家等地域貢献活用事業」は参考になる。また、空家等に限らず、既存建築ストックを地域資源と捉え、活用に向けて様々な取り組みを行っている。空き家率は11%を超えている。空き家の活用は喫緊の課題だ。

□市議会議員 鈴木だいイチ (日本共産党)

超高齢化社会を迎える2025年を目前にし、小平市においても空き家対策は喫緊の課題となっています。今回の研修会で、豊島区の「空家利活用事業」として「ブックカフェ」や「若年妊婦を支援する活動拠点」に空き家を改修し有効活用している例を聞き、私の個人的な想いとしては市議になる前に介護現場で働いていたこともありデイサービスやグループホームなどへの利活用がすすんでいけばいいな、と感じました。社会的に増え続ける「空き家」が問題となっていますが、工夫次第では逆にいろいろな可能性を持っていると思います。空き家対策についてはできれば党派関係なく、住民福祉の向上のために小平市としても利活用がすすむように私も頑張っていきます!

「分かった会」のお手伝いを始めて

塚本典子

10月から「分かった会」の講師メンバーに加えていただきました。数年前まで公立中学校に37年間英語科教員として勤め、退職後、現在は東京都の非常勤教員として適応教室で働いています。「分かった会」でも英語中心に学習のサポートをさせていただいています。「分かった会」のメンバーに少しでも英語の楽しさ、面白さを伝えられたらと思っています。学習内容が苦手でも、完璧にわからなくても、あきらめずにコツコツと努力する生徒の姿を見てまた生徒たちの姿に触れたい、と思い週2回小川公民館に通っています。



理解できていないこと、何かすっきりわからないこと、などあればどの講師の先生方も親身に対応してくれます。どこが理解できていないか、講師の先生方も一緒に考えます。その中で自分の間違えや理解の不十分だった点が明確になっていきます。生徒が先生に気軽に質問でき、それにじっくりといねいに答えてもらえるこの場が大変貴重です。

私としても専門の英語以外の内容を学んだり、思い出したり、教わったりできる場として、毎回自分の刺激になっています。自分の知らないこと、忘れてしまったことを生徒と一緒に勉強していくのは本当に楽しいことです。「分かった会」の生徒たちは毎回学習内容をしっかり決め、とても集中して学習に取り組んでいます。休み時間や学習の合間に様々な話題で和気あいあいと話ができる雰囲気もいいな、と思います。学習方法のアドバイスはもちろんのこと、学校での出来事の話、時には日々の悩みや愚痴なども飛び出します。講師の先生方と生徒たちとの信頼関係があるからこそです。

今後も生徒と共に「学ぶ楽しさ」「知る喜び」を求めていきたいと思っています。微力ながらも「分かった会」のお役にたてるよう努めてまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

児童養護施設と地域の連携

～虐待予防だけでなく虐待を受けた子どもの「ケア」にも関心を～

児童養護施設二葉むさしが丘学園

自立支援・地域連携コーディネーター 竹村雅裕

児童虐待をなくしたい。そうした思いを持っている大人は地域にもたくさんいると思います。しかしながら虐待をめぐる事件は後を絶たず、またこのコロナ禍において相談・対応件数ともに増加しており、今も苦しい思いを抱えている子ども(そして親も)が多くいるのが現実です。

私が勤める児童養護施設は、こうした虐待等を理由に親と離れて生活する子を預かり、養育し、自立を支援

する福祉施設です。6～8名の小集団の中で共に暮らし、子どもたちはそこから幼稚園や学校へも通いますし、高校生はアルバイトに出かけたりもします。

当施設がここ小平市に設立されたのは昭和51年ですが、私が今の施設に勤め始めた約10年前、子どもたちが通う学校の保護者の方をはじめ地域の方々、児童養護施設がどんなところかほとんど知りませんでした。

障がいのある子どもの施設でしょ？いやいや、悪いことをした子が入るところみたいだよ、そんな声すらありました。

そんな環境の中で子どもたちが育つというのはどうなんだろうかと、という当時感じたモヤモヤをきっかけとして、2014年から地域連携コーディネーターを名乗り、学校や地域との関係構築や、施設やそこで暮らす子どもたちの現状を知ってもらうための活動を今も手探りながら継続して行っています。

虐待による心身へのダメージや、家族と一緒に生活することが出来ない喪失感(グリーフ)は、私たちが想像している以上に深く、日々の生活や学校での生活、様々な場面での人間関係に大きな影響を及ぼします。

大小問わず、様々な失敗・トラブルが起こります。そんな子どもたちを支え、見守り、育ち直しを保障するためには、施設職員の力だけでは限界があります。そんな時、地域の方々が”強い味方”でいてくれるのが、子どもたちの今と未来を左右するといっても過言ではありません。

児童虐待が身近な地域課題であると同時に、虐待を受けた子どもをどう地域で支えていくのかということへもぜひ関心を持っていただき、すべての子どもが愛され、健やかに育つ街を皆さんと一緒に作っていただければと今日も願って奮闘中です。

地域のつながいと大学の役割

小平西地区地域ネットワークは10年を迎えます

瀧口 優(保育科教員)

2012年3月小平西地区地域ネットワーク(以下「西ネット」)は発足しました。そして2022年3月で10年が経過することになります。白梅学園大学・短期大学の中では2012年以前「地域ネットワーク作りの研究」として6年ほど積み上げ、人のつながりが人に対する信頼を高め、地域ネットワークを形成していく力になるという結論に至りました。その時に東日本大震災がおこり、東北の人たちの日々のつながりが困難な中でも生きる力になっていることを目の当たりにしました。そして小平の大学周辺を基本としたネットワーク作りに取り組むことになりました。

地域の世話人には当時地域とつながりのある教員が声をかけてスタートしました。月1回の大学世話人会、2ヶ月に1回の地域世話人会、そして3ヶ月に1回の地域懇談会、更には地域懇談会に合わせて情報紙「小平西のきずな」を発行してきました。

府中街道より西側を西ネットの持ち場と位置づけ、更にそれを4つに分けてそれぞれの地域で顔の見える地域づくりを進めてきました。第一ブロックは小川西町と栄町、第二ブロックは中島町、上水新町1丁目、そして小川1丁目の500番前後まで、第三ブロックは上水新町2丁目と小川町1丁目の1000番前後まで、そして第四

ブロックは上水新町3丁目、たかの台、小川1丁目の1000番台、更には津田町1丁目、上水本町1丁目と分されました。

第一ブロックでは小平市たいよう福祉センターを会場にブロックの会議が開かれ、この12月で60回を越えています。今年の7月から地域の良いこと、良いところを紹介する『地域ごころ通信』を発行し、現在3号まで出されています。

第二ブロックではけやきの郷を中心に「西の風」の集まりを持ち、コロナで中断していますが中島地域センターを会場にコミュニティサロンがスタートしています。地域の人々の意欲が感じられます。

第三ブロックではコミュニティサロン「きよか」が6年間続いてきましたが、家主の都合で会場を引き上げることになり、現在次の会場を探しています。大学を会場としたコミュニティカフェなども開催しています。

第四ブロックは、先駆的にコミュニティサロン「さつき」をスタートし、これが小平市のモデルとなって市内に広がって行きました。サロンへの集まりを通して人のつながりと信頼が広がってきました。しかしこの「さつき」も家主の都合で会場を返却しなければならなくなり、現在その代替え場所を探しています。

西ネットとして取組んでいることがもう一つあります。中学生を対象とした勉強会「分かった会(かい)」です。今年で7年目をむかえ、中学校3年生が希望の高校には入れるように援助してきました。小川公民館をお借りして毎週夜の勉強会を行っています。講師はボランティアで10名以上の参加があります。

西ネット10年を通して大学と地域とのつながりが深まりました。今まで地域何があるのか分からない状態から、西ネット内にはどこに何があり、どのような人々が住んでいるのかが見えるようになりました。更に地域とつながる行政との接点も多くなり、顔の見える取り組みができるようになってきています。

しかし地域は広いです。各ブロックも、その地域に住んでいる人々の数は8000人を越えています。この人々が横につながってこそ地域としてのつながりが出てくるのだと思います。次の10年はこのつながりをどのようにして構築していくのか、それが求められています。

ともあれ3月5日(土)15時より地域懇談会を10周年記念として行い、市長や教育長にも声をかけています。2012年3月には前の小林市長も参加して西ネットへの期待を述べていました。この10年間でその期待に応えられたのかそれも問われることになります。

最後に懇談会での報告や講演の一覧を載せておきます。

No	年	月	タイトル
1	2011	9	地域ネットワークと大学の役割
2	2011	11	地域ネットワークの拠点作りに向けて
3	2012	3	小平西地区地域ねとワーク作り設立集会
4	2012	5	小平西地区地域ネットワーク作り
5	2012	9	各ブロックの話合いと全体会
6	2012	11	各ブロックの話合いと全体会
7	2013	1	子どもが危ないーメディア漬けが子どもを蝕むー
8	2013	2	子育て・子育てシンポジウム
9	2013	3	地域で支えあい、つなげるまちづくり
10	2013	5	知(地)の拠点整備事業
11	2013	9	公民館が地域に果たす役割
12	2013	12	中学生の学習支援について
13	2014	3	小平市のまちづくりの特徴ー生活・自然・文化
14	2014	5	平成26年度「知(地)の拠点整備事業と小平西ネット
15	2014	9	「恍惚の人」「福祉施設の現場からー地域と認知症ケアについて」
16	2014	12	小平神明宮から見た地域コミュニ

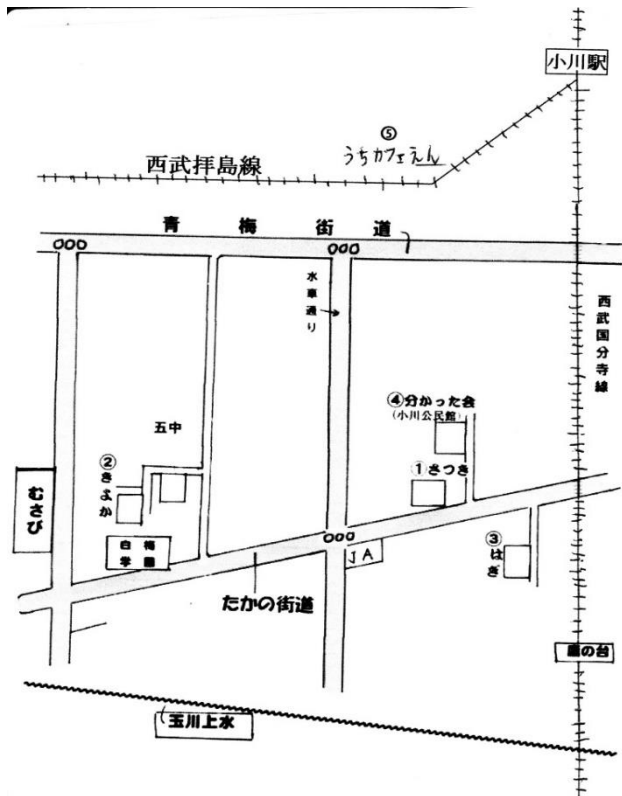
			タイ活動
17	2015	3	民生児童委員の役割ーお互い様の活動から
18	2015	6	ムサビと近隣の方との防災コラボレーション
19	2015	9	遊び心と地域づくりー子ども期の遊びの重要性を考える
20	2015	12	小平西地区にコミュタクを走らせるには
21	2016	3	パンのレシピが人を繋ぐー自分の居場所・みんなの居場所へと
22	2016	6	DVD上映「おじいちゃんの季節」
23	2016	9	障がいを持った子どもたちと共に
24	2016	12	小平学・まちづくり研究所の発足にあたって
25	2017	3	顔の見える地域居場所作りー小平西地区の今までとこれから(5周年)
26	2017	6	映画上映「少年ムヒカ道徳の物差し」
27	2017	9	小平の児童館が行っていること
28	2017	12	子どもの遊びと家族の成長
29	2018	3	地域における緑成会整育園の役割ー心身障害児者施設として
30	2018	6	地域のつながりと公民館
31	2018	9	地域住民『大学』の夢
32	2018	12	「中学生勉強会『分かった会』設立5周年をむかえて」
33	2019	3	上映「ケアニシ」
34	2019	6	武蔵野美術大学と地域
35	2019	9	小平南西地域のコミュニティタクシーを走らせる会
36	2019	12	災害支援ボランティア・コーディネーターとしての地域貢献
37	2020	3	映画上映会『ピアーまちをつなぐもの』
38	2020	6	コロナ禍により中止
39	2020	9	コロナ禍により中止
40	2020	12	地域包括から見えてくる現状(OL)
41	2021	3	「小平市地域保健福祉計画」って何か?
42	2021	6	ヤング・ケアラー問題を考える
43	2021	9	豊島区の空き家利活用事業に関する研修会
44	2021	12	世田谷トラストまちづくりと「地域共生のいえ」に学ぶ

3月5日(土)は10周年の記念集会を行います。コロナ禍がなければ小平市長、教育長、白梅学園大学学長も参加します。ぜひご参加ください。

皆さん、コミュニティサロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 11:30~15:30 (移転先検討中)
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェス」(小川町)**
毎週月・水 13:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤 絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定
 大学世話人会: 01月11日(火) 18時~
 地域世話人会: 02月01日(火) 18時~
 大学世話人会: 02月15日(火) 18時~
 地域懇談会: 03月05日(土) 15時~
 大学世話人会: 03月15日(火) 18時~

イベントの予定

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください (奈良勝行)。

メール: everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で40号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、この4月から10年目に入っています。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています (瀧口)。